



## 前橋の宝

# 大胡神社のムクロジを訪ねて

前橋市には、さまざまな文化財や史跡、天然記念物、郷土芸能などがあります。それらは、地域で大切に守られ、暮らしの一部として地域とともに年月を重ねてきました。この中から、市指定天然記念物に指定されている大胡神社のムクロジにスポットを当て、取材しました。担当は市民編集委員 奈良博吉・中野和子



問い合わせは 文化財保護課 ☎027-280-6511

### 全国的にも大きい樹木

大胡神社のムクロジ（河原浜町）は平成20年3月19日に市指定天然記念物に指定されました。幹の太さ3・7m、樹高25mもの巨樹で、樹齢は300年以上と推定されます。

落葉樹のムクロジは、6月に花が咲き、秋には球状の果実が熟します。果実は約2cmで、その中に約1cmの種子があります。果実の皮にはサポニンが含まれていて、つぶすとせっけんのように泡立ち、洗浄力があります。また、黒く熟した種子は堅くて羽根突きの羽の玉として使われています。市文化財調査委員の片



ムクロジの種子で作られた羽根突きの羽

山満秋さんに市指定天然記念物に指定された理由を伺いました。「地上から130cmで測定した幹の太さが300cm以上の樹木を巨樹・巨木といいます。大胡神社のムクロジは、巨樹・巨木に該当します。また、文献が示す成長の限度に近く、環境省の全国巨木調査によれば、全国的にも大きい樹木といえるため、天然記念物にふさわしい樹木として指定されました」

ムクロジは、茨城県・新潟県以南の暖帯や亜熱帯に自生し、東アジアや東南アジア、南アジアに広く分布しています。片山さんによると、群馬県での自生は確認されていなかったとのことでした。

### ムクロジはどのようにしてここにきたのでしょうか

ムクロジがある大胡神社は、かつての大胡城の近戸曲輪にあたります。

大胡城跡は、大胡支所から大胡神社に至る台地に築かれ、南北670m、



大胡神社宮司の奈良原さん（左）と市民編集委員・中野さん（中央）、奈良さん（右）

東西310mの規模を持つ平丘城で、大胡氏、牧野氏の居城でした。大胡神社は、もとは二宮赤城神社の系統の近戸大明神で、天正年間（16世紀後半）に大胡城主大胡常陸介高繁が三夜沢赤城神社の奈良原氏を招き、以後、歴代の城主から大胡城の守り神として祭られました。明治42年に、周辺の22社を合祀して大胡神社と改称されました。

ムクロジがこの場所にきた理由を大胡神社宮司・奈良原宣久さんに伺いました。

「ムクロジに関する記録はありませんが、ムクロジの果実は、生糸の油を取るために使われることがあるので、養蚕に関連して植えられたのではない

### でしょうか

ムクロジは木質が軟らかく、木材に適さないといえます。一般家庭の庭先に植えられたものは、伐採されてしまふことがありますが、神社の境内に植えられているために、今まで伐採されずにきたのではないかと考えているそうです。

### 暮らしの中のムクロジ

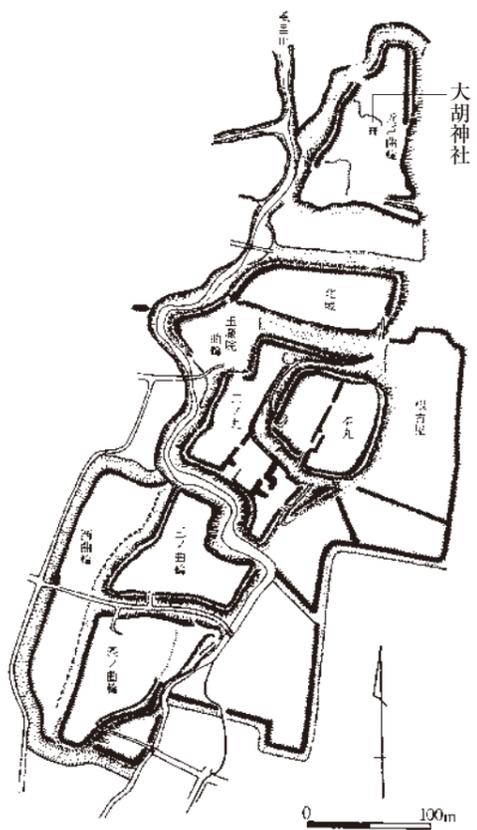
ムクロジとともに暮らししてきた奈良原さん。

「せっけんのないときに、代用品として使いました。戦時中は、しらみの予防のために果実の皮を頭につけたことがあります」と小学生のころのお話を伺いました。

4〜5年前に親戚よりムクロジの苗木をもらいました。珍しい木なので聞いたところ、お正月の羽根突きの羽の玉がこのムクロジの実だということでした。このたび大胡神社に天然記念物のムクロジを訪ねてみて驚きました。大木でした。（奈良）



下見に訪れた時には、ムクロジの木が分からず、取材当日、裸木になっていましたが、神社の庭に威風堂々立っていました。青空をバックに高々と枝を伸ばした幹はもちろん、根回りの大きさ広さに300年の時の流れを感じました。（中野）



大胡神社

〈資料／大胡城縄張図〉  
出展：新版 前橋の文化財（前橋市教育委員会発行）より

### 市指定天然記念物（13件）

- 前橋高等学校のラクウショウ（下沖町） ●総社神社の社叢ケヤキ（元総社町一丁目） ●西大室町公民館のオハツキイチョウ（西大室町） ●元総社町石井家のクスノキ（元総社町） ●井出上神社のシイ（飯土井町） ●春日神社のケヤキ（上佐鳥町） ●柵樹林（河原浜町） ●三夜沢のブナ（三夜沢町） ●大穴のブナ（柏倉町） ●金剛寺のナツメ（苗ヶ島町） ●大胡神社のムクロジ（河原浜町） ●沼の窪のザゼンソウ（富士見町赤城山） ●大室公園のコナラ（西大室町）